

## 第24回京都文化芸術都市創生審議会 摘録

日時 令和5年12月21日（木） 午後1時30分～午後3時30分

場所 職員会館かもがわ 大会議室

出席委員（敬称略）：

＜現地会場＞池坊専好会長、赤松玉女副会長、笹岡隆甫副会長、岩崎奈緒子委員、  
奥山理子委員、建畠哲委員、藤澤浩一委員、松本邦子委員、やなぎみわ委員、  
山本毅委員、吉田良比呂委員

＜オンライン＞前田耕平委員、矢島里佳委員、山極壽一委員

事務局：砂川敬文化芸術政策監、平賀徹也文化芸術都市推進室長、長谷耕治京都芸大・文化  
連携推進部長、小林中美術館担当部長、山口壮八文化財担当部長、山下聡担当部長、  
森貴之担当部長ほか

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 本市の文化政策の方向性と取組について  
事務局から資料説明後、別紙のとおり意見交換
- (2) 京都文化芸術都市創生審議会への主査制度の導入について  
原案どおり承認

### 3 閉会

本市の文化政策の方向性と取組について

吉田委員

- ・ 本日は、文化芸術に関わる様々な状況の変化の中、政策を担っている私どもが特に課題に思っている「文化庁・芸大移転後の文化政策の在り方について」、「芸術家等の居住・移住の推進について」の2点についても御議論の中で御意見を頂ければありがたい。

山極委員

- ・ 京都芸大の移転は我々にとって大きな強みになる。京都には芸大が移転した京都駅周辺のほか、岡崎地域、二条城、植物園、コンサートホールなどが集積する北山などいくつかの拠点がある。それらをうまく使って、インバウンドも含めてどう人の流れを作るかを考えることが必要。京都芸大のキャンパスの中で、市民・インバウンドとどう協力して取り組んでいくかが重要であり、京都芸大をプラットフォームにするための計画を丹念に練った方が良い。
- ・ 夜のまちの活性化は花街抜きには考えられない。また、岡崎エリアを夜も人が行ける場所にする 것도大きな戦略の一つ。京都市京セラ美術館やロームシアター京都、動物園等が連携して、どういうメニューで、どう人を流すかを京都市の戦略として考える必要がある。
- ・ 文化庁と、その北にある植物園、国際会館など、地下鉄等の交通網の中で各地域をどうつなぐかという大きな戦略を考えていただきたい。
- ・ 移住については定住を原則として人を呼び込むのではなく、短期的にでも、まずは来ていただくことが重要。安価に滞在できる芸術家村のようなものを、空き家を改造して作り、そこに長期間滞在して制作していただくとともに、その発表の機会を京都府・市が作ってはどうか。そこに京都芸大を使ってもよいと思う。こういった取組を通じて、住みやすさを実感した方に京都に住んでもらうのが適当ではないだろうか。京北や美山町なども活用できると思う。
- ・ 万博に関しては、パビリオンの計画や学生が考案したロゴ等が決まるなど、まさにこれから始動というところ。現在、若い世代が中心となって、文化だけではなく環境を合わせながら、地域、文化、産業を振興しようと検討を進めている。京都は環境保全に平安時代から力を入れてきた。ある意味で、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の一番のモデルになる地域である。その肝が川の流れだと思う。琵琶湖から淀川を通じて大阪、その先の海までつながっている。そういうつながりを大きなコンセプトとして環境と文化を見据えて歴史的な大事業として取り組んでいく。
- ・ 重要なのは大阪・関西万博がゴールではなく出発点という考え方。万博まで500日を切り、具体的な案を作っていく。

やなぎ委員

- ・ 現在、多くのお寺が廃寺、存亡の危機にあり、個人の家にあるものも含めて仏像が処分される事態が多いため、仏像の救済・修理ができるところが京都市内にあればと思っている。

例えば、奈良には「なら歴史芸術文化村」があり、一般の人にも修理するところを見せている。京都は元々、運慶、快慶が始めた七条仏所という歴史があったところであり、芸大・美高が移転した崇仁地区あたりにそういったものがないだろうか。日本の仏像、仏画の危機的な状態を学生、高校生にも教えるべきだと思っている。

- ・ アーティストの居住については、苦勞し続けている人たちをたくさん見ており、市内にある劇場のスタッフも地価が高騰し、近くではなく滋賀県に住んでいる。こういったことがあちこちで起こっていると思う。ここはぜひ助けていただかないと、若い人がおそらく京都市内に住めない。京都芸大の跡地、旧沓掛キャンパスも含め、市内中心部に通える近い範囲にそういうところがあればと思う。

#### 赤松副会長

- ・ 京都芸大では、大学院に保存修復の専攻があり、主に仏画の修復を手掛けている。企業がスポンサーとなり、京都市から紹介された仏画を学生たちが修復している。学生にとっても貴重な機会で、お寺も助かっており、スポンサーにとっても社会貢献につながっているので、こういった取組が進めばと思っている。
- ・ コロナ禍を乗り越えて芸大移転が実現できたのは皆様の応援のおかげであり、改めてお礼申し上げる。便利な場所に移転したことでお客様が増えたことを実感しており、例えば企業のグループ視察のほか、朝は保育園児たちが毎日のように芸大の中の階段を上がって電車や車を眺めている。その他にも万博を絡めてではあるが、海外の提携校からも学長などたくさんの方々をお迎えし、発展に向けた意見交換が行えている。大学の授業と合わせ、テラスのように開かれてまちと結ばれ、学生の学びにもつなげたい。若々しい活動を地域、企業の方に見ていただける一歩を踏み出せた。これから長い目で大学・学生を見ていただきたい。

#### 山本委員

- ・ 京都芸大を退職し、京都芸大はコンテンツの集合体だと改めて実感している。とてつもなく多くのコンテンツがあるということを、まずは京都芸大自身が、そして市民、それらの代表である市会、市役所がもっと認識していくこと、広めていくことが大切だと思う。
- ・ あの場所に芸大がある、しかもそれを京都市が作っていること自体が、コンテンツとしてのものすごく発信力がある。また、学生・教員という存在そのもののコンテンツがある。楽器を抱えた学生がそこに通学していること、学生たちが交わす会話が聞こえることがまちに与える影響があると思う。
- ・ 音楽に関して言えば、学生たちは二つの能力を持っている。一つは演奏の能力、そして演奏について教育する能力。これらの能力は実践によってこそ伸びる。実践の場は学生にとってはもちろん、市民にとっても重要なものである。
- ・ 京都芸大が行っている授業も重要なコンテンツ。これを学生の妨げにならない形で、いかに市民に見せていくか。今は映像配信や音声配信など色々な技術が発達しており、それを用いるなら、勉学の邪魔にならない方法で見せることができるコンテンツ、それも魅力的かつ有益なものがたくさんあるはずなので掘り起こしていくことが大切だと思う。
- ・ 京都芸大生による演奏会は、既に市内各所で行っているが、ある程度の手間が掛かる規模

のものとなっている。ただ、3回生くらいになると、2時間のリサイタルは難しくとも30分ほど何か弾いてということであれば容易にこなすことができる。それが身近なところで行われるようになればとても良いものになる。

- 学生たちがコンサートに向けて取り組むプロセスも非常に面白いコンテンツ。それを見せることが学生にとっても、教員にとっても有益だと思う。それを市民に役立てていただく、楽しんでいただくことが大切で、そのためには大学として何を見せられるかを考えるとともに、市民としてもこれを見せてほしいという働きかけが重要。例えば、演奏会だけでなく、普段の活動つまりリハーサルやレッスンなどを、市民に大学に来てもらって見てもらったり、市内各所に持ち出して公開するという方法もあるのではないか。高校の授業に学生が教材として参加するなどすれば、高校生にとっても学生にとっても有益。学生たちの邪魔にならない方法で、いかに活動を面白く見せていくかを考えれば、自然に交流が生まれる。また、裾野に広がっているアマチュアの方々の役にも立つだろう。今の場所になったことで、大学に人が来ることも、大学から人が出ていくことも以前よりはるかに容易になっているのだから。
- アマチュアの裾野が広がれば、トップクラスは自然に出てくる。アマチュアの人にとって京都芸大は夢のようなコンテンツをたくさん持っているところ。自身の経験から言うと大学にいと忙しくてコンテンツ開発に目が向かない傾向もあるかと感じるので、外からの働きかけが大切になる。そのため、市民の方々と大学との意見交換がもっと行われればよい。
- 居住に関しては、そこに目を向けてくれていることがありがたい。学生・芸術家にとって住むところは大问题。音楽の場合で言うならば、住むだけでなく、そこが活動の場にならなければならない。この場合の活動の場というのは、コンサートという完成品を見せる場というだけではなく、コンサートのためのリハーサルや、制作の場であり、それが居住地に近接している必要がある。色々な分野の音楽家が集まり、防音の面でも守られリハーサルができる場所、それも半年といった短期ではなく、学生時代から卒業後の数年間という大切な期間に継続して活動できる場があれば若い芸術家にとってありがたい。そして、その活動をリハーサルや制作過程も含めて市民に見せていくことが重要でもある。

#### 松本委員

- 以前、音楽について取材したのだが、京都芸大の学生は優秀で様々な賞を取られていた。これらの活動と、食文化や夜のエンターテインメントの三つは融合できるのではないか。コンサートの後に少し何かをしよう、食べようというスペースが無いため、ホールでの演奏後、地下鉄に乗り込んで帰ってしまう。旅行会社に入ってもらうことも必要かもしれない。
- 市内に若い人が手掛けるコーヒーショップ、カフェなどが増えている。彼らと話していると、カフェ等での生演奏、作品を飾るといったことにも前向きで芸術家とのつながりを求めているが、出会いの場所が無い。SNSなどで勝手につながっている面はあるとは言え、つながる場所や、依頼する際の費用・時間の目安の提示などのサポートがあれば、もっと色々なことがつながるのではないか。
- 移住・定住についてはアーティストに限らず、カフェをやりたい人を始め、色々な若い人々に市内に住んでもらうことがこれからの京都市にとってもよいのではないか。
- 京都には多くの芸術大学があるので、卒業生にも移住・居住の情報が届く形でPRしてい

ただければと思う。

#### 岩崎委員

- ・ 私は文化財、日本史が専門だが、率直に言って、今日の資料でも文化財の面が弱いと感じている。ただ、その点についても取り組んでいきたいという話があつてほっとしている。
- ・ 文化財を取り巻く状況は危機的な状況にあり、用具用品の原材料が手に入らないことに加え、生産してくれる人も減っている。また、文化財と言うと江戸時代より前と考えがちだが、近代以降の絵画作品も文化財の保存対象となるものが数多く出てきている。近代以降は化学物質を使って作品が作られているため、変化がとても早い、あるいは思ってもみない変化が起きることがある。文化財の修理・保存は緊急の問題であるとの前提に立って、文化財を多く抱える京都市には積極的に文化財の保護に関わって欲しいと心から思っている。
- ・ 京都国立博物館の中に文化財を修理するところがあるが、そこは国の補助金の対象である文化財を修理するためのもの。そのため、おそらく今回作ろうとしている国の文化財修理センターも国指定の文化財が対象になるのではないかと予想している。そうなった場合に、国指定外の文化財をどうしていくか。国の指定文化財の修理に関わっている工房でも国指定以外の物を手掛けてくれるとは言え、費用が高いため、たくさんの資料を直してもらうことが難しい。また、修理センターにお願いするというのはそもそも敷居が高い。工房は定年制を取っているため、定年を迎えると技術があっても辞めざるを得ない。ただ、水場を備えるなど修理に取り組める場所があれば、そういった技術がある方々を集めて、国指定を扱う工房にはお願いできないもの、完璧でなくても少しでも延命させられるような修理ができる場を作れるのではないか。それを京都市で作れないだろうか。定年等でやめられた方に声をかけ、文化財に対する愛のある方がたくさん集まる場をつくることができれば、よいアイデアも出てくるのではないか。芸大等を含め、文化財を守りながら活用する象徴的な場所として、京都市として進めていただきたい。
- ・ 京都市は考古資料館、歴史資料館という貴重な財産を持っているが、それらがうまく活用できていない。建物の整備は難しくとも、御所、二条城の近くという歴史的な立地を生かし、これらとタイアップするなどしてアピールしてはどうか。特に考古資料館は古くなっているので、事業者さんなどにも入ってもらって若い人が来たくなるような雰囲気、見栄えに整えていくことが大切ではないか。外側の雰囲気は良いので、中をしっかりとって、有効に生かしていく道があるのではと思う。

#### 池坊会長

- ・ 未指定文化財についての京都市のアプローチは何かあるか。

#### 事務局（砂川文化芸術政策監）

- ・ 未指定文化財の扱い、文化財関連の資料館活用など岩崎委員の御指摘は我々の問題意識そのもの。文化庁の文化財部門が全面的に京都に来ていただいているので、しっかり連携し、保存、展示、研究の三つの機能について、しっかりと課題を克服する在り方を検討することを考えている。また、修理についても文化庁が来たことで密に話ができる関係になっている。

こういった展開を、どういう役割分担で進めていけるかを文化庁と検討していきたい。

#### 建島委員

- ・ 文化財の保存と活用はどうしても二律背反になる。例えば展示するに当たって、数週間で作品を入れ替えるなどの配慮は行うが、光を当てればどうしても傷んでしまうところがある。ただ、文化財も文化資源である。以前、東アジア文化都市という事業の一環で、アート作品を二条城で展示した。二条城は京都市が所有する大きな文化資源であり、こういった場で活用との両立を図ることが重要ではないか。
- ・ これに関してのサンプルとして、近年、ベルサイユ宮殿で大規模な現代アートの個展が開かれるようになってきている。展示は巨匠に限られるとはいえ、宮殿の保存と活用とがうまく重なり、国際的にも華やかな活用ができています。二条城でも定期的にシンボリックなアートイベントを開くことができれば魅力的ではないだろうか。美術館ではない歴史的建造物は会場として非常に魅力的である。京都市内の寺社でそのような取組が行われつつあるところだが、二条城は京都市の所有であり、市の決断で取り組めるのではないか。

#### 矢島委員

- ・ 乳幼児への文化芸術の提供の機会が少ないと感じている。小学生以上への提供が大半で、小さくても3歳以上が対象とされていることで、実際に2歳の子を抱える身で参加できるイベントが少ない。インバウンドも重要だが、未就学児の子たちをもっと政策の対象に入れてほしいと日々感じている。特にゼロ歳から3歳が手薄に感じる。育休産休中の親が多く、大人の側も比較的時間があるので機会があれば、参加できるのではないだろうか。

#### 藤澤委員

- ・ 映像コンテンツへの取組を京都市の文化政策に位置付けていただけるとありがたい。いわゆる聖地巡礼として、何でもない八百屋さんが作品に登場することで訪問先になるなどの事例もある。オーバーツーリズムの解消、分散につなげることもできるのではないか。映像メーカーは大半が東京に集中しているとは言え、京都には太秦などの拠点もある。京都府が積極的に取り組まれているが、京都市としても取り組んでほしい。

#### 池坊会長

- ・ 京都には、太秦のほか、映像系の学部のある大学、美術系の大学もあるため、それらと連携して取り組むことも考えられる。

#### 奥山委員

- ・ 京都に滞在してリサーチしたいという相談を頂くことがあるのだが、観光シーズンの場合、小さなホテルでも1泊数万円の宿泊代がかかり、京都に来るだけでも精一杯の若い人にとって滞在が難しい面がある。ただ、海外から急遽アーティストの受入れ希望の相談があった際、京都府の公団住宅である堀川団地に、文化芸術の推進ということで協力いただき、かなりフレキシブルに短期のレジデンスが実現した例もあった。重要なのは対応がすごく早かったこ

とである。申請に時間がかかる、あるいは履歴書等が必要といったものではなく、国内外から京都に数日間滞在したい人がシェアできる拠点、そこをつなぐコーディネーターが貢献できる仕組みがあればと実感した。

- ・ 以前、比較的規模の大きな福祉施設から、「地域貢献の一環で自分たちが所有するホールを地域の人に使ってほしいのだが、施設運営のノウハウがない。また、どんな芸術家に使ってもらえれば福祉施設と、その施設がある地域双方にとって良いものになるかという考え方の整理をしたい」との相談があり、それをお手伝いさせていただいた。コロナ禍も落ち着いたため、福祉施設など文化芸術以外の分野の施設も活用できるのではないかと思う。ただ、これには課題も感じており、以前、東京で福祉施設を文化施設にしていこうという構想を持ったことがあった。しかし、施設の形態も歴史も、さらには地域との関係性も様々であり、一括で同じ対応は難しかった。その点、京都は色々な相談ネットワークがあるので、それぞれの特徴に合わせたネットワークを活用しながら取り組むことができれば京都ならではのモデルが作れるのではないかと。

#### 前田委員

- ・ 現在、京都の川に着目し、特に高瀬川でフィールドワークを行っているのだが、親水空間が少ないと感じている。高瀬川は複数の学区を通っており、それらと絶妙に絡み合っている。また、京都芸大の中を流れている川であり、高瀬川が地域の方が芸大と関わるスペース、余白になるのではないかと思う。浅いので子どもが入っても大丈夫であり、近くの小学校と提携して特別授業なども行っている。今後、親水空間となることに期待している。
- ・ 居住・移住に関しては、私自身、京都を出て現在は神戸にいる。京都のサポートを受けるにしても京都に住んでいないと難しい感覚がある。短期レジデンスの場などが意外と少ないので、住んでいなくとも定期的に集まれる、活動できる場がもう少し増えるとありがたい。

#### 笹岡副会長

- ・ 先日、京都市が行った御池茶会に KYOTO Sustainable Network の一員として関わらせていただいた。学生の茶道部等がお茶会を行うという取組だったが、こういった学生が積極的に関われる取組を継続してほしい。
- ・ 夜のイベントとしては、京都市京セラ美術館でのチャリティオークションにも参加したのだが、とても盛り上がっていたし、若い人の支援にもつながっている。また、太秦映画村でも夜のイベントに取り組みされている。岡崎エリアのほか、京都芸大が移転した崇仁エリアなども寺田倉庫も入ってこれからどうなるか大きく期待している。そういった場で食に対する試みも行われると良い。アニメ、マンガ、食といったコンテンツが施策の中で弱いと感じるので、そういった横の連携も広がると面白いのではないかと。
- ・ 移住・居住に関しては、海外にいた方が日本に戻る際に京都をセレクトすることが多いと聞く。学生等も含め、一度出た人が帰ってこられる場所となることも大切ではないか。以前、企業の方に社員の個性に応じた育成方法が大事だと伺った。住むところも同じで、百人いれば百通りの住み方がある。例えばシェアアオフィスの芸術家版を用意するなど、色々な方の意見を聞いてできることをすることが大事だと思う。

## 池坊会長

- ・ 私の住んでいる地域も最近子ども食堂ができ、子どもだけでなくそれを支えるボランティア、お年寄りも含めて多くの方が集まっている。また、近くの小さなカフェでも近所の楽器店と協力して月に1度、食と音楽を楽しめるコンサートが行われている。コンサートホールに行くのは金銭・時間的に難しくとも、気楽に身近で音楽を楽しめる場となっている。
- ・ 文化政策との連携と言うと、どうしても大掛かりな枠組みを考えがちだが、俯瞰的に見る「鳥の視点」と、地に足が付いたささやかなものから取り組む「虫の視点」の両方が大切。ささやかなものを積み重ねることも豊かな文化の土壌につながる。今後の京都市の施策として本日の意見を生かしていただきたい。

## 事務局（砂川文化芸術政策監）

- ・ 頂いた御意見に関連していくつか紹介させていただく。
- ・ 移住・居住については、山科区御陵にある旧大学生寮の活用等に取り組んでいる。低廉に長期間滞在いただける施設の整備等の一つ一つ取り組むことで機運を助成していきたい。
- ・ 幼児向け施策については、京都市交響楽団でゼロ歳から参加できるコンサートを行っているほか、京都芸術センター、ロームシアター京都などでも、赤ちゃんを連れて気軽に入れるパフォーマンスなどに取り組んでいる。こういった取組を、今年度開設した子ども向けサイト「KYOTO ART BOX for KIDS」等で紹介していきたい。
- ・ 二条城については、今年度、本丸御殿の修復がようやく終わる。魅力が一つ増えるので、二条城全体として、MICE利用、現代アート展示等に積極的に活用し、それが保存につながるように取り組んでいきたい。
- ・ この審議会で頂いた意見は、我々の施策にしっかり盛り込ませていただいているつもりである。本日の御意見も参考になるものばかりであり、今後もしっかり取り組んでまいりたい。